

四天王寺福祉事業団実践セミナー開催のお知らせ

当法人事業計画では、各施設のサービス向上に向けて、課題・問題解決への取り組みは、PDCA サイクル等科学的手法を使用して解決に努めるとしております。また、これら取り組んだ事柄を振り返りまとめたり、得た成果を発表したりすることで、人に伝えるプレゼンテーション力、組織的な役割分担について学ぶなど、人財育成の機会としても生かされています。各施設の取り組みを発表する研究発表会を始めて 21 年。令和の始まりの年に「実践セミナー」として新生することにいたしました。より多くの方々と共に福祉を考える機会になればと考え、企画いたしました。今年度は、益財団法人テクノエイド協会理事長 大橋謙策先生にお越しいただき、ご講演を賜ります。多くの方のご参加をお待ちしております。

実践セミナーへのご参加について

参加無料

どなたでもご参加いただけます。出入り自由です。

法人職員以外の方のご参加もお待ちしております。

1. 大会日程

開催日 令和 2 年 3 月 28 日 (土) 12:30 受付 13:00~17:30

場所 大阪市立社会福祉センター
大阪市天王寺区東高津町 12-10

※駐車場はありません。公共の交通機関をご利用下さい。

スケジュール

12:30 受付

13:00 開始 基調講演

公益財団法人テクノエイド協会理事長 大橋謙策氏

地域共生社会づくりに向けた法人の役割～属性分野を超えた全世代交流型自立支援～

14:20 ポスター発表

15:30 口頭発表 (5 サークル)

17:30 閉会

2. 発表演題と研究サークルのご紹介 (口頭発表)

1 サークルの発表時間 15 分

1. 排泄介助の見直しについて

四天王寺松風荘

(養護老人ホーム 定員 100 名)

施設の特性：大阪・京都の中心部にほど近い、北河内の緑豊かな素晴らしい自然環境のもと、私たちは人との触れ合いを大切にし、明るい笑顔で利用者にとりある生活をしていただけるよう取り組んでおります。又、高齢者が住みなれた地域、ご自宅で安心して生活していただけるようご家族の要望を把握し、ご利用者に必要とされるサービスの提供を行います。

研究目的・背景
 養護老人ホームに入居されている方の ADL の低下または認知症の発症・進行によって、介護を要する利用者が増加し、排泄介助に要する時間もそれに合わせて増加していた。そのことにより業務が圧迫していき、利用者一人一人の排泄介助にかかる時間数が少なくなっていた。利用者のスキントラブルは一進一退を繰り返し、職員負担の増加により残業する事が多くなっていた。職員からは、利用者のスキンケア・職員の心身のケアが重要課題に挙げられており、早急な改善が期待されていた。様々な情報収集の結果、オムツ交換の回数を減少させても問題がない、むしろ減少させた方が利用者にとっても有益であるという医学的見地に出会い、オムツ交換の回数をご利用者に適した回数に変更するプロジェクトを発足した。

<p>2. 利用者との生活づくり ～自立支援の取り組み～</p>	<p>四天王寺悲田院在宅 (在宅訪問ステーション訪問介護)</p>
<p>施設の特性：羽曳野市にあります。サービス提供責任者が、6名在籍しています。経験豊富なスタッフが意欲的にがんばっています。利用者、家族への寄り添いの気持ちを大切にしています。事業所内や併設している施設での研修も多いので安心して利用していただけるようスタッフ一同、介護技術向上に努めています。</p>	
<p>研究目的・背景 2018年度介護報酬改定において、訪問介護について、身体介護に重点を置く考え方にシフトした。生活機能向上連携加算の見直し、自立生活支援のための見守りの援助の明確化、訪問回数の多い利用者の対応を行うことで自立支援・重度化防止に資する訪問介護を推進・評価することになった。またサービス区分の内、自立生活支援・重度化防止のための見守りの援助(自立支援、ADL・IADL・QOL 向上の観点から安全を確保しつつ常時介助できる状態で行う見守り等)についての項目がより具体的に明記されることになり訪問介護事業所のサービス提供責任者、居宅介護支援事業所の介護支援専門員などの関係者間にも周知されることにもなった。H29年度は「要介護への予防・自立支援への取り組み」、H30年度は「自立支援への理解」をテーマに、ご利用者の介護予防について取り組んできました。残された課題は生活援助の導入から始め生活環境を維持しながらリハビリとの連携を行い、できる活動に導くことにあると考え実行してきた。訪問介護事業の実態を調査し、現状を明らかにした。</p>	

<p>3. 環境整備</p>	<p>四天王寺和らぎ苑 (医療型障害児入所施設・療養介護 定員 100名)</p>
<p>施設の特性：重度の肢体不自由と重度の知的障害が重複している障害児・者が生活されています。日常的に医療ケアが必要なご利用者が多数生活しているため、医師・看護師が常に勤務しています。</p>	
<p>研究目的・背景 現在、当部署におけるご利用者（48名）の平均年齢は42歳で、うち50歳を過ぎた方が17名、最高齢の方は78歳と、徐々に高齢化が進んでいます。重度の障害を持っている方は機能低下が始まる年齢が早く、低下するスピードも早いという特徴があります。高齢化による障害の重度化は深刻な問題であり、また2階フロアの職員の平均年齢も50歳となりマンパワーの低下が今後懸念されます。従来施設設備でこれまでと同じ介助をおこない、これまで同様の生活の質を保つことは難しくなっています。ご利用者を取り巻く環境設備は、居室・フロア・トイレ・浴室と様々ですが、特にトイレにおいて、トイレ誘導による排泄介助での立位及</p>	

び座位の不安定さが問題点として考えられます。このような現状の中、あるご利用者のご家族から「どうかうちの子をトイレで座らせて、排便させてほしい」という要望がありました。ご利用者の機能低下により安全な介助が難しくなっており、職員の負担が大きくなっていることも事実ですが、何よりも何十年にわたって過ごしてきた生活環境をできるだけ損なうことなく生活してもらうことが必要だと考え、取り組みを始めました。

<p>4. 施設生活でのストレスを軽減するために ～利用者に寄り添う～</p>	<p>大阪府立女性自立支援センター (一時保護・母子生活施設 定員 80 名)</p>
<p>施設の特性：売春防止法を根拠法とする、婦人保護施設です。対象者は、地域で生活が困難となった全ての女性です。</p>	
<p>研究目的・背景 日常生活を送るうえでもストレスは必ず生じるが、施設という場だと、様々な制約や環境の変化により、一層ストレスを感じる事となる。「施設」という場で、少しでもストレスを軽減して生活してもらいたいと思い、このテーマを選定した。現状、利用者の抱える課題（離婚、子どもの心理面、金銭トラブル…等）が複合的かつ多岐に渡り、そういった利用者のストレス全てを解消することは難しい。そこで、まずは利用者自身の問題ではなく、施設で生活するにあたり、どのようなことにストレスや不安を感じているのかを利用者との会話から抽出し、また、2015年～2018年の過去4年間の利用者アンケート結果を分析し改善に取り組んだ。</p>	

<p>5. 学童児の「生きる力」を育む ～衣・食・住の視点から～</p>	<p>四天王寺悲田太子乃園 (母子生活支援施設 定員 27 世帯)</p>
<p>施設の特性：二上山のふもと緑豊かな素晴らしい環境のもとで、お母さんと子どもたちがのびのびと生活し、子どもたちが健やかに成長することを願い支援に取り組んでいる。</p>	
<p>研究目的・背景 四天王寺悲田太子乃園は、児童福祉施設としては唯一「母と子が共に生活する」母子生活支援施設である。時代とともに入所理由は変化しており、近年は「DVからの避難」と、母もしくは子の障害を含む「生活困窮」「育児困難」を理由とした入所がほとんどの割合を占めている。「DVからの避難」を入所理由とする利用者の場合、離婚の成立もしくは母子の安全の確保を課題として支援を行い退所に至るが、「生活困窮」「育児困難」を入所理由とする利用者の課題は多岐にわたる。 その中で、小学生を中心とする学童児について、学習能力以前に「忘れ物が多い」「衣類が汚れている」「寝坊して遅刻する」等、基本的な生活の乱れの目立つことが、部署会議、ケース会議を通じた職員間の現状把握で浮かび上がってきた。今回は子どもたちの基本的な生活能力（生きる力）の育みを、衣・食・住の視点から改善活動の目的とした。</p>	

実践セミナーに関するお問い合わせ先

四天王寺福祉事業団 研修委員会

成澤 佐知子 s.narisawa@shitennoji-fukushi.jp

西條 常夫 t-saijyou@shitennoji-fukushi.jp